

平成21年度 第1回 東三河ふるさと公園観察会記録

1. 事業名	東三河ふるさと公園 第37回自然観察会
2. 日時	平成21年4月19日(日) 晴れ 09:30~11:50
3. 場所	東三河ふるさと公園 豊川市御油町
4. 参加者	天野、石田、岡本(強)、神戸、坂口、柴田、鈴木(千)、高橋、鳥山(け)、中島(芳) 原田(文)、林、星野(京)、星野(芳)、牧本、間瀬、(16名)
5. 一般参加者	47名
6. 観察のコンセプト	<p>・「春の訪れを感じよう」</p> <p>桜の季節も終わり、周辺の山々の緑が一段と濃く、その色彩も種々である。今回カワラヒワの観察を通し、日本の色彩感覚につて、色見本を参考に、「ひわいろ」を探してもらう作業を実施した。次いで、「素色」について、芝広場周辺で該当する色のものを探してもらった。</p>
7. 観察行程	<p>09:20: 会員集合 受付、放送その他の庶務は公園管理者が行う。</p> <p>09:30: 観察会開始 ・公園管理事務所 挨拶 ・間瀬事務局長挨拶</p> <p>09:35: ヤマカガエルとアズマヒキガエルのオタマジャクシの観察(色による相違)</p> <p>09:40: 森を見てみよう(新緑が色濃くなり、種々の色の樹木が見られる。色の違いは種類や新芽の成長過程で相違する。)</p> <p>09:50: カワラヒワの観察、これに次いで日本の色を探してみよう。ひわいろ、素色について、該当する色の物を探そう。</p> <p>10:40: ホオジロ、センダイムシクイの観察、ウラジロの観察</p> <p>11:10: スミレの見分け方(アリアケシ、スミ、ヒメスミ等について)</p> <p>11:20: 水田雑草について</p> <p>11:30: 水辺の観察</p> <p>11:45: アンケート</p> <p>11:50: 観察会解散</p> <p>12:00: 連絡及び反省会</p>
8. 会員及び公園管理者から一言概要	<p>・色見本を参考にした、日本の色探しについて、参加者の評判も良く、今後、他の色についても実施しても良いのではないかと。</p> <p>・天気も良く参加者も多数で一般参加者47人、このため、後部の方はほとんど話が通らに状態であった。会員においては、一般参加者が解説者の周辺に集まるよう声掛けが必要だろう。</p>
9. 確認できた野鳥類	<p>メジロ、シジュウカラ、コゲラ、トビ、ハシブトカラス、カワラヒワ、ヒヨドリ、セグロセキレイ、ハクセキレイ、ムクドリ、ホオジロ、センダイムシクイ、ウグイス (ウグイスの囀りと、センダイムシクイの鳴き声、「焼酎一杯グイー」が好評でした。)</p>

10. 観察できた植物

スマレ、ヒメスマレ、タチツボスマレ、アリアケスマレ、ツボスマレ、アセビ、ミツマタ、ヒサカキの花、シャガ、オオジシバリ、タネツケバナ（美味）、ミチタネツケバナ、ヤブタビラコ、ホトケノザ、コバノガマズミ、ユキヤナギ、ケキツネノボタン、セリ、スズメノヤリン、カラスノエンドウ、スズメノエンドウ、カスマグサ、ジロボウエンゴサク、セイヨウタンポポ、トウカイタンポポ（ヒロハノタンポポ）、スズメノテッポウ、セトガヤ、キツネアザミ

11. 確認できた昆虫その他

・キチョウ、モンシロチョウ、ニシカワトンボ、ホソミオツネントンボ、アゲハチョウ、キマバチ、ハナアブの仲間、キイロテントウ

・キイロテントウについて・・・全国に分布する、テントウ虫科のわずか4mm程の小さなテントウムシで、前翅は黄色で、胸部は白色で1対の黒紋があります。出現期は4月から10月で、風通しの悪い、手入れの行き届かない樹木に発生するうどんこ病菌が発生した所を探すと見つかることができます。幼虫・成虫ともに植物に付く白濁病菌（うどんこ病菌）を食する、変わったテントウ虫です。同様にうどんこ病菌を食するテントウ虫として、シラホシテントウやシロジュウゴホシテントウがいます。



12. 植物の不思議

1) スズメノテッポウとセトガヤ（イネ科 スズメノテッポウ属）

スズメノテッポウは史前帰化植物で、田圃の雑草として普通に見られますが、これによく似た草にセトガヤも見かけます。両者を比較しないと区別が困難である。でも一度覚えてしまえばその後見間違えることはないであろう。スズメノテッポウは全国の田圃や湿った平地に群れをなし生える2年草、和名は小型で円柱状の花穂をスズメが使用する鉄砲にみたてたもの。別名スズメノマクラともいわれるが、こちらの方がより納得できるのだが。セトガヤはスズメノテッポウの生育地より湿った所に生える。



スズメノテッポウ
葯は黄色
花が小さく密生している。



セトガヤ
葯は白色
花が大きく、荒い感じである。

2) スミレの概略的見分け方

- (1) 地上部に茎がある（有茎種 例 好ツボスミレ）か、無い（無茎種 例 ツボスミレ、マキノスミレ）かにより区分する。
- (2) 葉の裏の色と葉柄に翼があるかないかにより区分する。（マキノスミレは葉の裏が紫色）
- (3) 托葉があるかないかで区分する。



葉の表の例



葉の裏の色の例



たく葉の例



マキノスミレ

3) スミレについて

植物等の名称で、総称を表す名前が、そのまま種の名前となっている例は少なく、スミレもスミレの仲間の総称である名称が、種の名前となっている珍しい例です。

種子の発芽状況により、ときどき観察場所のように、大きな群落を形成することがある。葉柄に見られる翼で区別できる。



13. 見られた昆虫

1) ホソミオツネトンボとニシカワトンボについて

名前は細身と付いていますが、オツネトンボより少し大型です。体つきがスリムであるためこのような名前がついたのではないかと思います。

このトンボは名前の通り、成虫で冬を越します。3月ころ日当たりのよい木間で見かけるがまだ未成熟です。4月頃水辺にでて交尾産卵します。



日本のカワトンボについては、進化をめぐり、ヒガシカワトンボ、オオカワトンボ、ニシカワトンボと1種で3亜種に区分する人や、更にヒウラカワトンボを加えた4亜種説があり結論が出るのに時間を要するようです。

このような細かいことは別として、カワトンボでもよいのではないかと思います。



14. ヤマアカガエルについて

事務所前の水路にヤマアカガエルとアズマヒキガエルのオタマジャクシが見られる。

アズマヒキガエルは黒色で、早く成長し、変態を行い、小さい蛙となり陸上に上がり山の中に入る。ヤマアカガエルはゆっくり成長する。













オタマジャクシには口の周りにオロシガネのような「歯列」が見られる。成熟した個体となると歯列（歯）はなくなる。

また、タゴガエルは顎部に灰色の斑点があるので区分できる。産卵は石の下や隙間に産みつけ、ヤマアカガエルの卵より大きく、色は白色で、オタマジャクシは成長するまで餌をとらない。（葦毛湿原の沢でも見られる。）



(参考) 穴の中に産みつけたタゴガエルの卵塊

15、観察写真

			
アリアケスマレ	スマレ	ヒメスミ	タチツボスマレ
			
ムラサキサギゴケ	コナス	ハナイバナ	オヘビイチゴ
			
ノミノフスマ	スズメテッポウとセトガヤ	キツネアザミ	キイロテントウ



トカゲ



カナヘビ



ヌマガエルの背面



腹面が白い

見られた爬虫類、カエルの仲間



ホソミオツネトンボ



ニシカワトンボ



水路でオタマジャクシの観察



森を見てみよう



「ひわいろ」を探そう



スマレの観察



タンポポの観察



オオジシバリの観察



ウラジロの観察



田圃の雑草の観察



水辺の観察

備考

- ・天候に恵まれ参加者も多く47名（一般参加者）であった。
- ・キイロテントウ

小さな黄色いヘルメットのようです。ナナホシテントウムシの半分の大きさです。面積で比較すると更に小さくなります。

